

# ヒブ（インフルエンザ菌b型）予防接種説明書

## ＜ヒブ感染症の予防＞

### ⊖ヒブ（H i b）感染症とは？

インフルエンザ菌の中でもb型は、乳幼児にとって、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの感染症のほか、細菌性髄膜炎や敗血症、肺炎などの深刻な感染症を起こす細菌です。冬に流行するインフルエンザとは全く別のものです。多くの細菌とは異なり、ヒブは乳幼児に感染しても抗体（免疫）ができず、繰り返し感染することがあります。ヒブによる細菌性髄膜炎は、生後4か月～1歳までの乳幼児が過半数を占めています。

早期の症状は熱と不機嫌くらいで、血液検査をしてもかぜと区別できないことも多く、このため診断が遅くなりがちです。その後、ぐったりする、けいれん、意識がないなどが出てきます。最近では抗生物質の効かない菌（耐性菌）も増えており、治療が困難になってきています。

**これらの病気を防ぐために行われるのがヒブ（H i b）予防接種です。**

このワクチンは、製造初期段階にウシの由来成分が使用されていますが、精製工程を経て製品化されています。世界100カ国以上で使用されていますこのワクチンが原因で、TSE(伝達性海綿状脳症)にかかったという報告は1例もありません。

### ⊕接種方法について

ヒブ（H i b）ワクチン（不活化ワクチン）

インフルエンザ菌は7種類に分類されますが、重症例は主にb型のため、このワクチンが使用されます。

対象年齢：接種時点で竹富町の住民である 生後2か月以上5歳未満

接種方法：皮下注射（**接種を開始する年齢によって、接種回数が異なりますのでご注意ください**）

対象者	標準的な接種期間	接種開始時期	接種回数	接種間隔
生後2月～60月	初回：生後2月～7月 追加：初回終了後7月～13月の間隔をおく	2月～7月	初回：3回 追加：1回	・初回接種：生後12月に至るまでの間に27日（医師が必要と認める時は20日）以上 ・追加：初回終了後7月以上
		7月～12月	初回：2回 追加：1回	・初回接種：生後12月に至るまでの間に27日（医師が必要と認める時は20日）以上 ・追加：初回終了後7月以上
		12月～60月	1回	・一回のみ

追加接種の注意：生後12月までに定められた回数の初回接種を完了せずに生後12月以降に追加接種を行う場合、初回接種終了後27日（医師が必要と認める時は20日）以上の間隔をおいて1回

**確実に免疫をつけるために、特別な接種間隔が定められています。接種前に必ず確認しましょう。**

注）発熱などで接種間隔内に接種できなかった場合でも、熱が下がるなどして接種ができる状態になったあと、すみやかに接種を受ければ定期的接種とみなされます。

### ⊖副反応について

接種部位が赤く腫れたり、腫れ、しこりなどの局所的な反応がみられることがあります。また、熱、不機嫌などの全身反応もみられることがあります。通常は一時的なもので数日で消失しますが、お子さんの機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどは医師にご相談ください。